

5. 越谷病院の泌尿器科開設6年間の臨床統計

越谷病院 泌尿器科

北原聡史, 佐藤 両, 山下高久, 木原敏晴,
鈴木常貴, 矢野雅隆, 中井秀郎, 安田耕作

【目的】平成10年4月より泌尿器科が開設され, 16年3月にて6年を経過したのでこれまでの臨床統計をまとめ, 発表する。

【対象・方法】上記の期間に越谷病院泌尿器科の外来受診あるいは入院した患者における検査および手術の統計。

【結果】外来患者数は一日平均では平成10年の31.2人から平成16年の73.1名に増加した。入院では一日患者数は18.6名より平成14年まで増加していたが, 平成15年には27.6名と減少した。この原因として材手術や検査は過去6年では増加して増加していた。在院日数は平成12年では平均17.4日であったが, 平成15年では9.3日まで低下した。泌尿器科の医師は研修医を含め, 平成10年の4名から平成16年の7名と増加している。外来の長時間待ち, 入院患者の手術待機が問題となっている。

6. 起立性低血圧を有する2型糖尿病患者の臨床的特徴について：心拍変動パワースペクトル解析を用いた検討

獨協医大越谷病院 内分泌代謝・血液・神経内科
島村絵里子, 若林貞男, 工藤里香, 山本留理子,
松本幸子, 犬飼良尚, 松友利加, 奥村期一,
中町隆史, 竹林晃三, 麻生好正, 犬飼敏彦

【目的】起立性低血圧を有する2型糖尿病患者の心拍変動パワースペクトル解析 (PSA), 神経伝導速度および血液凝固能を検討した。

【対象と方法】起立時に収縮期血圧が30 mmHg以上低下,あるいは20 mmHg以上低下し, めまい・ふらつきなどの臨床症状を有した群を起立性低血圧群 (18名), 残りを正常群 (87名)として2群に分けた。PSAは, 24時間ホルター心電図より高速フーリエ変換にてlow frequency (LF), high frequency (HF)を算出し, LF/HFを交感神経活性, HFを副交感神経活性の指標とした。神経伝導速度, 凝固系のマーカーとしてprothrombin F1+2 (F1+2)も測定した。

【結果】起立性低血圧群において, 24時間平均LF/HF, 各時刻のLF/HFは正常群に比べ有意に低下し, 正中神経, 腓骨神経伝導速度も有意に低下し, 血漿F1+2値は有意に上昇していた。

【結論】2型糖尿病患者において起立性低血圧と心交感神経機能低下との密接な関連が示され, また起立性低血圧患者では凝固能の亢進も示唆された。